

東北塗装工業株式会社 代表取締役 若山 良夫氏

誇りを持てる塗装工事を行い 社会・顧客に価値ある企業でありたい



PROFILE

1970年生まれ、新潟市出身。東京の大学を卒業後、新潟に帰郷し、住宅メーカーに5年間勤務する。1998年、東北塗装工業に入社。現場管理をはじめさまざまな仕事を経験し、2010年に社長就任。新潟商工会議所では常議員、パワーアップ5000推進委員会の委員長を務める。

●その他の役職

一般社団法人 新潟県鋼構造物塗装協会 会長、一般社団法人 日本塗装工業会 新潟県支部 副支部長

1972年創業の東北塗装工業は、プラント塗装・建築塗装・公共工事の3部門を柱とする塗装工事の専門会社。長年にわたって培ったノウハウで専門性を高めながら、「自分が誇りを持てる仕事をする」を基本方針として掲げる同社の若山社長に、お話を伺いました。



東北塗装工業株式会社
〒950-0034
新潟市東区浜谷町1丁目9番36号
TEL:025-272-0811
<https://touhoku-tosou.com/>



塗装は差別化が難しい仕事。だからこそ“この人に任せれば安心”という仕事をし、お客様との信頼関係を築いていくことが大切です

腐食対策が重要なプラント塗装、サンドブラスト施工がコア事業に

1972年創業の東北塗装工業は、当時大手ハウスメーカーに勤めていた若山社長の父親が、取引先だった同社から頼まれ1977年に会社を継承。当初は建築塗装をメインとしていたが、徐々に石油会社などエネルギー系企業との取引が増え、プラント塗装が主力事業となっていった。「プラントは鉄物が多く、海沿いにあることが多いので、錆を防止するために定期的な塗装メンテナンスが必要です。腐食を進めないためには古い塗膜を完全に除去したうえで防食塗装を行わないといけませんので、塗膜除去に必要なサンドブラスト施工ができることが次第に当社の強みになっていきました」と話す。

苦労した時代の経験がプラスに。地域や次世代への貢献活動も

若山社長が入社したのは1998年。「2000年代前半はとにかく安さを求められました。品質を落とすわけにはいきません。そこで無駄を省いて効率よく仕事をするために、いろいろな工夫をしました。その時の経験はプラスになっているかもしれません」。そんな苦労した時代から今に至るまで大切にしてきたのが、“人が大事”という思いだ。「当社のこの人にお願いしたいとお客様から言ってもらえるような仕事をしていこうと、いつも社員に話しています」。

また、去年は地元の銀行を通じて「みらい応援私募債」を発行し、その手数料を活用して新潟明訓高校ハンドボール部へハンドボールを寄贈。「私



同社が得意とするサンドブラスト施工。塗装前の下処理を効果的に行うために、高圧空気です砂を打ち付け、古い塗膜をはがしている。

の長男長女が明訓のハンドボール部で成長させてもらったので、その恩返しです」と話すように、今後も機会があれば地域や次世代への貢献活動を行っていききたいという。

お客様にとっても、社員にとっても魅力ある会社

新潟商工会議所では、パワーアップ5000推進委員会の委員長を務める若山社長。「商工会議所にはいろいろなメニューがあるので活用しない手はない。当社でいえばビジネス総合保険（※P13参照）を利用して、以前よりも半額ほどの保険料になりましたし、新人教育やセミナーなども活用しています。こうしたメリットを多くの会員に知ってほしいですね」。

会社の今後については「塗装の仕事は構造物や建物の維持・修繕が大きな役割なので、今後増えるであろう需要に向けて注力していきたいです。また、新潟県は全国でも塗装会社が非常に多く、その中で勝ち残っていかないといけない。今は人手不足が大きな課題ですが、お客様にとっても、社員にとっても魅力ある会社であれば存続していけるのではないかと考えています」。社員一人一人が“誇りを持てる仕事”を行い、社会と顧客にとって価値のある企業を目指していく。



工事を安全に行うために、現場では作業工程や安全面の打合せが必須。この他、大手企業の安全教育を活用した取り組みも社内で行っている。